

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 131	提案機関名 長井町漁業協同組合
要望問題 アカモク養殖について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 長井では、5年前からアカモクを製品化しており、朝市やJAの大型直販施設「すかなごっそ」や漁業者の直売序等で、売れ行きも好調である。しかし、漁業者1軒当たりの生産量の増加やアイゴによる食害等により、アカモク資源の枯渇が懸念されている。実際に、今年の2月から4月にかけては、アカモクの繁殖量が非常に少なく、生産量も伸び悩んでいる。 そこで、アカモクについても、安定的な生産体制を築き、ワカメ養殖と同様に冬場の収入源として定着させるため、アカモク養殖の実用化に向けて、試験に取り組んでいただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画資源部普及指導担当
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 漁業の担い手育成事業		
対応の内容等	当センターでも、平成26年漁期は全県的にアカモク繁殖量が少なかったことを把握しております。また、漁業者が収穫して製品化するアカモクは、受精して種子を放出する前の状態であることから、製品需要の増加に伴う増産に応じて、アカモク資源の枯渇が懸念されます。 そこで、平成26年3月より、「アカモク養殖試験」として、様々なロープ等への基質にアカモクを種付けし、貴漁協所属漁業者の協力も得てアカモク種苗生産試験も行っており、今後、これらをアカモク種苗として用いた養殖試験を計画しております。 現時点で、アカモク種苗の魚類等による食害等の問題点もありますが、順次解決を試みて、3年以内のアカモク養殖の実用化を目指してまいります。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			